

## 1 平成29年度 研究主題

### 主体的・協働的に学ぶ児童の育成 ～深い学びにつながる対話と振り返りの探究～

## 2 主題設定の理由

### (1) 学校教育目標から

本校は、教育目標を『鍛える』～心豊かでたくましい子どもの育成～としており、目指す児童像として、①しっかり考え行動する子②自分も友達も大切にする子③心身ともにたくましい子④仲間と協力できる子⑤粘り強く最後まで頑張る子を掲げている。

昨年度は、授業の中に対話の時間を確保していくことで、児童の聴く力や話す力、書く力の育成を図り、主体的かつ協働的な学びの実現を目ざしてきた。また、振り返りとして適用問題と算数日記を継続して行ってきた。前者は付けたい力の定着、後者は自分や友達のよさやがんばりに気づくことで、学習習慣の形成や学習意欲の向上をねらったものである。対話のスタイルや算数日記の習慣化が確立されるなど一定の成果はあったが、目的や必然性の曖昧な「対話の形骸化」や「算数日記のマンネリ化」といった課題も明らかになった。そこで、本年度はより効果的で必然性のある対話活動と、家庭学習や次時に活用できる振り返りの研究を進めていきたい。対話と振り返りを充実・発展させていくことで、児童がより主体的・協働的に学び、どの児童にも『確かな学力』が根付くようになると考える。さらに、日常生活の中でも対話や振り返りを重視し、主体的かつ協働的に活動していくことは、道徳的判断力の育成にも資するものであり、『豊かな心』の育成にもつながる。以上のことから、この研究主題を推進することで、教育目標の具現化につながるものと考えます。

### (2) 児童の実態から

本校の児童は、人懐っこく、明るく元気で、指示された学習課題に対してまじめに取り組むことができる児童が多い。しかし、主体的に考え自ら学ぼうとする学習姿勢や、最後まで粘り強く学習に取り組む態度に差が見られ、それが学力の個人差や家庭学習や読書量の差にもつながっている。平成28年度に実施した全国学力・学習状況調査の結果においては、国語Aを除き、その他の科目は全国平均を下回る結果となった。特に算数Bは－4.5Pであった。また2～5年生が受検した標準学力テストにおける1評定(算数)の児童の割合は21.2%であった。一方で、1月に実施された高知県学力定着状況調査では、4・5年生とも全科目で県平均を上回り、特に5年生の算数は県平均を19.4P上回っていた。また1～3年生が受検したCRT検査では1評定(算数)の児童は7.3%であった。このことから、昨年度の対話と振り返りを重視した授業づくりは一定の成果はあったものの、さらなる基礎・基本的な学力の定着・向上を図り、かつ活用力を育成していくためには、より充実・発展した取り組みが不可欠である。そのためにも、児童が主体的かつ協働的に考え、話し合い、考えを深化・統合し、まとめ、振り返る授業づくりを進めていかなければならない。

今年度は、教育課程拠点校事業の2年目を迎えるが、これまでの取組を継続・深化させながら、算数科の授業改善を中心とした研究に取り組み、算数科授業研究のモデル校として研究推進の役割を担っていく。そこで、研究部として『算数科教育課程部会』、実践部として『確かな学力部会』『豊かな心部会』の3部会で組織的なOJTに取り組み、研究を具現化していく。

## 3 研究仮説

◎必然性のある対話や活用可能な振り返りの探究を推進するが、主体的かつ協働的な学習活動につながり、深い学びが達成できるであろう。